

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第2部会(第2回)
2 会議の開催日時	平成25年5月10日(金) 14時00分から16時05分まで
3 会議の開催場所	ときわ会館5階 中ホール
4 出席者名	審議会委員：渋谷治美部会長、大久保秀子副部会長、浅輪田鶴子委員、新井森夫委員、久世晴雅委員、鶴見清一委員、徳山晴美委員、中崎啓子委員、根本稔巳委員、林一夫委員、三宅貫三委員、宮本直美委員、 事務局：江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、猪狩文康、南友和、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・第1回部会の主な意見について ・分野別計画(素案)について(教育・文化・スポーツ) ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	1人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会第2部会（第2回）議事概要

第1回部会の主な意見について確認した後、分野別計画（素案）のうち、教育・文化・スポーツの分野について審議しました。

議題（1）第1回部会の主な意見について

事務局から、資料1に基づき第1回部会の主な意見について説明があり、確認しました。

議題（2）分野別計画（素案）について（教育・文化・スポーツ）

事務局から、資料2に基づき次について説明があり、施策ごとに審議しました。

- 施策1：希望をはぐくむ教育の推進と青少年の健全育成
- 施策2：生涯を通じた学びの充実とその成果の活用
- 施策3：健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現
- 施策4：文化芸術都市の創造
- （仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

【主な意見】

○施策1：希望をはぐくむ教育の推進と青少年の健全育成について

〈現況と課題〉

- ・「知」「徳」「体」「コミュニケーション」とあるが、学校によっては「徳」を重視しているところもある。並び順はこれで良いが、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスが大切である。

〈成果目標〉

- ・難しいのはわかるが、「徳育」に関する成果指標を掲げられないか。
- ・成果指標に学力調査に関するものがある。ほとんどの小中学生が塾に通っていることから学校だけの成果とは言えず、疑問を感じる。

〈施策展開〉

- ・青少年の居場所づくりが重要である。公民館は生涯学習の場であるが、青少年にはなかなか利用しにくい。また、会場確保の競争率も高いので、青少年の居場所となる施設整備が課題となる。
- ・コミュニティデザインという手法で、民間も入って居場所づくりをしている他自治体の例もあり、そのような居場所づくりが必要である。
- ・「学校・家庭・地域・行政が連携・協力」とあるが、この「地域」には企業も含まれるべきものとする。
- ・「学校施設の老朽化対策」とあるが、トイレを含む学校施設の老朽化は大きな問題であり、対処できるのか。耐震化は進んでいるようだが、より良い教育環境づくりという視点が必要である。

- ・学校はどこまで責任を持てばよいのか、という疑問を感じる事例を体験してきた。地域と家庭のさらなる努力があってもよいと感じている。
- ・「特色ある高等学校づくり」とあるが、高等学校だけでなく、単に「学校づくり」でも良いのではないか。
- ・「地域に開かれた信頼される学校づくり」については、敷居が高いと感じることがあるので、ぜひ進めていただきたい。
- ・「地域に開かれた信頼される学校づくり」についてだが、学校関係者はそうしたいと常々考えている。しかし、難しい現状があることを教員経験者として補足しておきたい。
- ・第1回部会でも述べたが、先生方をはじめとする現場の声をよく聞いたうえで、計画を策定すべきと考える。

○施策2：生涯を通じた学びの充実とその成果の活用について

〈成果目標〉

- ・成果指標の「公民館主催事業の延べ参加者数」は、事業を増やせば増える数字なので、生涯学習社会の成熟という成果を示す指標として適切か、疑問を感じる。

〈施策展開〉

- ・本来、公民館は貸館ではなく、地域のための公民館、生涯学習の場であるべきと考えるので、各館が方向性をしっかり認識することが大切だ。
- ・ITを利用した、という部分が出てきていない。情報化社会の今、その点が見えた方がよい。
- ・公民館を舞台とした、子ども、子育て中の親、シニアの交流があつてよい。
- ・公民館からの情報は、どうも一方通行であるように感じている。ボランティアをしたいときにどこに行けばいいかわからないことがある。ニーズを汲み、反映させる仕組みがあつてよい。

○施策3：健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現について

〈施策展開〉

- ・スポーツは、障害者にとってもすばらしいものである。障害者のスポーツ大会などを、何らかの形で支援していければと思う。また、スポーツを通じた障害者と健常者の交流も意義深いので、今後、活性化していけば良いと考えている。
- ・「する」「みる」「ささえる」「まなぶ」とあるが、人がスポーツに関心を持つ流れを考えると、「みる」「する」「まなぶ」「ささえる」の順番ではないか。
- ・大宮公園の競輪場用地などを活用して、陸上競技場などの施設がつかれないか。サッカーだけでなく、マラソンなど多様な市民スポーツ文化を育てていきたい。
- ・施設が少ないとの声を聞いているので、拡充を求めたい。また、利用料の問題などがあり、市民がもっと体育館を利用できる環境づくりが必要である。

〈その他〉

- ・施策の見出しが「「スポーツのまち さいたま」の実現」となっているが、どのよ

うな状態であれば「実現」されたとするのか。

○施策4：文化芸術都市の創造について

〈成果目標〉

- ・「文化的なまち・芸術のまち」と答えた市民の割合とあるが、「文化」と「芸術」は異なるものであると考える。施策の目標は、市民を芸術家にするのではなく、文化人とするのではないか。
- ・文化芸術活動に参加するか否かは、個人の信条によるところも大きいと考えられるので、「文化芸術活動参加率」を成果指標とするのはいかがなものかと思う。

〈施策展開〉

- ・音楽など、多様な文化芸術活動を支援すべきと思う。それから、子ども・高齢者の中間にあたる世代の活動促進や、わかりやすい情報の発信、市民が利用しやすい活動拠点づくりなども必要ではないか。
- ・公共施設の建て替えなどの際は、文化芸術の心を反映させた計画にしてほしい。

○（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

- ・平成24年度市民ワークショップでは、“さいたま市らしい魅力あるまちづくり”が話題となった。文化芸術施策に関しても、例えばラ・フォル・ジュルネ（音楽祭）など、多くの人が魅力を感じられる、もっと市民目線の取組があってよいと思う。

○分野別計画（素案）全般について（教育・文化・スポーツ）

- ・成果目標全般に言えることだが、なぜ増やさなければならないのか、という理由が重要である。数字の一人歩きや、数字の自己目的化は避けなければならない。
- ・「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」は良いフレーズなので、大きな項目、見出しの言葉として採用するなどしたらよい。

その他

事務局から、部会の第3回開催日程について連絡しました。

○5月24日（金）午後2時から ときわ会館5階 中ホール